

新類題發句集

春

八十

14

3157

21(1)



14  
3157  
21  
(1)

越三山  
緣島日  
國郡市印

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. It appears to be a transcription of a document or a list of items, possibly related to the location mentioned in the red seal above.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 12 lines of writing.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It is contained within a rectangular border and consists of approximately 12 lines of writing.

春



新類題發句集春之部

正月

晴月

晴月夜半の如月

日向 春島

去春

去春の如月夜半の如月

伊勢 紫管

初春

初春の如月夜半の如月

先方 弘長

初春

初春の如月夜半の如月

近江 吳竺

初春

初春の如月夜半の如月

歩陸 石言

初春

初春の如月夜半の如月

末 重厚

蝶夢編

春二

Handwritten text in cursive style, likely a continuation of the collection or a related note.



初難 信 應字  
 初鳥 門 青橋  
 初霞 英 退二  
 初夏 讀 燕支  
 初風 近 如在  
 初霞 浪 岸浪  
 初霞 北 北岸  
 初霞 須 須惠  
 初霞 丹 丹山  
 初霞 舊 舊國

春三

初日 文 文興  
 初日 信 錦水  
 初日 信 浙江  
 初日 京 雨更  
 初日 隆 松崎  
 初日 松 滿舟  
 初日 五 五香  
 初日 末 輪々  
 初日 追 花鳥  
 初日 丹 其白

二十日

徳園齋

古方

之方欄

幸柳尾

優くはあそびくさぬさう白  
ふく日柱をく踏るる河馬を  
火障りたる猿をりく木をけ  
鳴るるさくを祖師の刻を  
しるるさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
灯をさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを

浪高 芒雪  
三河 木袋  
山越 園枝  
尾北 学海  
伊豆 冬季  
近江 塘里  
全江 程巴  
乙見 方壺  
吉江 之巴  
幸柳 柳也

春四

門松

門竹

門扉

藁舎子

さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
橋守の柳をさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
相中をさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを  
さくをさくをさくをさくを

行充  
侍者 門馬  
乙見 兔堂  
尾北 江山  
丹后 群菜  
尾北 好古  
尾北 木吾  
出羽 昌博  
三河 梅門  
三河 杜隣

飾繩

雲  
江  
カ  
柳  
石  
書  
心  
大  
李  
松  
古  
夏  
夏  
夏  
夏  
夏

金

朝

心

涼

昌

坐

夏

夏

夏

夏

飾繩

齒采

飾繪

標

雲  
江  
カ  
柳  
石  
書  
心  
大  
李  
松  
古  
夏  
夏  
夏  
夏  
夏

金

朝

心

涼

昌

坐

夏

夏

夏

夏

若水

大服

齒固

雲  
江  
カ  
柳  
石  
書  
心  
大  
李  
松  
古  
夏  
夏  
夏  
夏  
夏

金牛

古友

文瓜

布正

五竹

安心

魚赤

芦口

如泉

綠古

新煮 新煮くまの喜ののりて  
 稚子の様は流くはらへりて  
 味も乃もかみはらへりて  
 大も乃もかみはらへりて  
 老も乃もかみはらへりて  
 梅も乃もかみはらへりて  
 鏡餅 鏡餅も乃もかみはらへりて  
 廣瀬酒 廣瀬酒も乃もかみはらへりて

行路 信若 山城 去後 志下 荒多 絶好 伊美 荒多 安室  
 御風 栞葉 一音 奢洗 曉東 梅珠 子詢 墨不知 其朝 東吹

春六

蓬萊 蓬萊も乃もかみはらへりて  
 倉棧 倉棧も乃もかみはらへりて  
 棋子 棋子も乃もかみはらへりて  
 橋 橋も乃もかみはらへりて  
 榎 榎も乃もかみはらへりて  
 搗栗 搗栗も乃もかみはらへりて  
 串杖 串杖も乃もかみはらへりて

出羽 伊勢 京 吉波 如平 信波 陸奥 和泉 近江 因幡  
 歩月 三打 蝶夢 蘇柳 鳳裁 杏候 陶白 牛文 無位 極花



種像 橙 野元 田作 小原系 敷子

半のちかむし 意河 持の友  
海のうみまき 海まきも  
神のまき 木のまき 木のまき  
たのまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
冷のまき 木のまき 野元の  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき

雪車 鳥木 露吟 山呼 座忘 文育 涼石 十二巧 一葉 花柳

春七

押點 俵子 圓華 圓夏 箬頭 掛鯛

敷のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき  
木のまき 木のまき 木のまき

行竜 阿羅 友藤 東亭 百男 我口 凡馬 燕士 千尺

福業

書の巻に於て... 福業... 勸... 法降... 庭電... 稻積

京 鯉風  
勢 二區  
志 西席  
近 葉路  
張 吉竹  
伴 月美  
佐 如白  
上 野  
元 周義  
出 出蕭

春九

水祝

水祝... 初曆... 吉書始

張 鯨山  
遠 扇甫  
徐 徐末  
陸 司系  
陸 東芽  
如 如憐  
出 鷄口  
推 推五  
秀 秀山  
素 素鳩

書物世り〜〜の二公  
 中物も〜〜名も如き空珠  
 上り物も〜〜名も如き空珠  
 古物も〜〜名も如き空珠  
 弓始  
 馬索始  
 船索始

五羊  
 右羊  
 左龍  
 隅川  
 清好  
 羊几  
 福々  
 航翠  
 園台  
 左文

春九

鋤始  
 高始  
 右節  
 藏用  
 帳用

馬瓢  
 下糸  
 門忍  
 其由  
 倚川  
 波公  
 墨人  
 西李  
 花書  
 左柳

总衣始

惟書也... 始... 衣... 始... 惟書也... 始... 衣... 始... 惟書也... 始... 衣... 始...

丹后 百尾

紀伊 一川

出羽 桃野

遠江 木禿

後序 杜陵

我亦 羽扇

出羽 百中

紀伊 梅旭

我亦 佳茗

和泉 漱瀨

和泉 漱瀨

春十

湯為始

彈初

籟初

舞初

楓初

松雅

子壽萬歲

惟書也... 始... 湯... 彈... 籟... 舞... 楓... 松... 子壽萬歲... 惟書也... 始... 湯... 彈... 籟... 舞... 楓... 松... 子壽萬歲...

治元 來之

加夜 雲如

他子 黃山

王法 孤舟

我后 月相

吳法 梅和

上院 合生

近江 素明

永 書真

永 五雲

大黒者

大黒者も面白くもなれど  
左も右も人の心もあはれ  
喜も悲も人の心もあはれ  
一は二も三も人の心もあはれ  
七は八も九も人の心もあはれ  
十は十一も十二も人の心もあはれ  
十三は十四も十五も人の心もあはれ  
十六は十七も十八も人の心もあはれ  
十九は二十も人の心もあはれ  
二十は二十一も人の心もあはれ

土佐女 白雅  
後あ 白雅  
松伴 青子  
美波 青子  
糸 白茅  
母名女 茂子  
後中 桃二  
中名 竹涼  
糸 亀子

春駒

猿引

鳥道

春駒も猿引も鳥道も  
鳥道も猿引も春駒も  
猿引も春駒も鳥道も  
春駒も鳥道も猿引も  
鳥道も猿引も春駒も  
猿引も春駒も鳥道も  
春駒も鳥道も猿引も  
鳥道も猿引も春駒も  
猿引も春駒も鳥道も  
春駒も鳥道も猿引も

春土

破産

破産

玉打

羽子板

胡鬼子

破産も玉打も羽子板も  
玉打も羽子板も破産も  
羽子板も破産も玉打も  
破産も玉打も羽子板も  
玉打も羽子板も破産も  
羽子板も破産も玉打も  
破産も玉打も羽子板も  
玉打も羽子板も破産も  
羽子板も破産も玉打も  
破産も玉打も羽子板も

後後 泰漢  
山城 風葉  
遠江 蓬室  
江戸 是月  
路 嵐花  
甲斐 一路  
丹后 百橋  
陸奥 梅里  
信濃 甲魚  
信濃 銀獅

自諫

寶門

福引

幸也

Handwritten cursive text in vertical columns, corresponding to the characters above.

但る 兼隆 万容 以流 冬斜 柴菊 馬吹 紫吹 梧泉 其丸 膳花

春十二

節餐

藪入

Handwritten cursive text in vertical columns, corresponding to the characters above.

京 巴陵 近江 其流 坂中 琴二 糸分 魯白 尾張 山父 攝津 至高 信必 久人 丹后 東九 後后 材風

十書六入や面の一白なるの友  
 類々入れ日影もさうもよきの愛  
 ちふらにのりしし毎日のさるるも  
 庭の入りや権那の業は相さる  
 藪の入りや藪の心はなを針さる  
 藪の入りや井をなをさるさる  
 葉の入りや野をなをさるさる  
 里の入りや美より錦さるさる  
 月を居た清のけしき角も  
 のりさる割る日影も流る

信玄 春南  
素 散菴  
信玄 野亭  
素 秋鳥  
信玄 如髪  
素 此相  
丹后 羽谷  
丹后 蔵珠  
播磨 探羞  
播磨 似研

夫百十卷

鏡餅開

里下尾

月餅やよきいなるから杵の音  
 礼もきくさきもつらも言家志  
 流りやしら守を針細るさる  
 つの事や美のさるさるさる  
 三味打や土座をめさる那の煙  
 左義長や室のさるさるさる  
 左義長や室のさるさるさる  
 左義長や室のさるさるさる  
 左義長や室のさるさるさる  
 左義長や室のさるさるさる  
 左義長や室のさるさるさる

近江 六福  
近江 徳孝  
美濃 冬秀  
近江 春山  
尾張 有交  
信玄 菊乙  
近江 吳琴  
素 丁水  
素 巴川  
近江 梅東

若餅

細串

爆竹

松内

木取

木の葉は青くもよりの木は白  
根を切ると木の葉は赤くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白

木取

木取

木取

木取

木取

木取

木取

木取

木取

木取

春十四

初寅

木芽漬

初子白

木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白  
木の芽は青くもよりの木は白

木芽漬

春十四

小松皮

木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白  
木の皮は青くもよりの木は白

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

小松皮

善菜

木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白  
木の葉は青くもよりの木は白

善菜

善菜

善菜

善菜

善菜

善菜



善業堂  
 七廿  
 つまじりし神意志あはれむら  
 精進の目もみりしゆ  
 美業その中よりあつる  
 おはれとてあはれむら  
 物さしりし事しり起るあはれ  
 七廿やあはれむらゆり  
 ありし事ゆりあはれむら  
 なりし事ゆりあはれむら  
 七廿の想あはれむら  
 ありし事ゆりあはれむら

讀改 嗽石  
 武蔵 柳也  
 江戸 麓六  
 播磨 著莪  
 江戸 鯨魚  
 上野 魚肉  
 播磨 布舟  
 後改 化麥  
 一巴

春十五

粥柱  
 福偏  
 善業粥  
 齋  
 七廿やあはれむらゆり  
 七廿やあはれむらゆり  
 ありし事ゆりあはれむら  
 なりし事ゆりあはれむら  
 七廿の想あはれむら  
 ありし事ゆりあはれむら

末尾 琴之  
 播磨 青薺  
 兵庫 一斤  
 魚肉  
 楚和  
 寸堵  
 紀伊 環祀  
 播磨 西傳  
 甲斐 白喬  
 後甲 李山

粥杖

赤豆粥

福寿竹

下崩

粥つゝも神の貴くもなむ  
の杖や赤豆粥の杖  
大善の杖もなむ  
の杖もなむ  
福寿竹もなむ  
梅もなむ  
下崩もなむ  
石馬もなむ  
布子もなむ

春十六

綾足

雷舌

木槿

南無

琴之

梅珠

素琴

五峯

石馬

布子

水菜

當菜

落基

廣蒿

廣蒿

雨の杖や水菜の杖  
凍の杖や落基の杖  
水菜の杖  
落基の杖  
廣蒿の杖  
廣蒿の杖

十計

重厚

文和

睡花

李雲

路人

完来

渡口

西奴

花胡

醫藥新葉

菠薐菜

芥

野大根

苦苣

苦角菜

藻生

七叶のしりけのしりけ

はるまじき草花のしりけ

芥のしりけのしりけ

はるまじき草花のしりけ

百葉のしりけのしりけ

苦苣のしりけのしりけ

苦角菜のしりけのしりけ

あしの角菜のしりけのしりけ

朝のしりけのしりけ

藻生のしりけのしりけ

鳥語

種蘭

蝶曼

秋水

雄羊

一翫

道肥

青容

其玉

嶺文

齊十八

草芽

若草

下草のしりけのしりけ

志のしりけのしりけ

草芽のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

若草のしりけのしりけ

末

北化

竹涼

麥雨

一形

唇風

石牙

柔貫

鳳爪

木越

仙鳥

牡丹

牡丹の花は春の華やかさ  
を知らしめ、貴族の  
生活の象徴として  
愛され、多くの  
詩歌に詠じられた

春十  
素山  
好木  
鬢風  
閑史  
程玉  
由父  
大和  
山香

春十七

春竹

春竹

春の竹は節操高く  
成長を遂げ、清らかな  
風を奏で、君子の  
徳を象徴する  
植物として愛され

春十  
素山  
好木  
鬢風  
閑史  
程玉  
由父  
大和  
山香

木芽

梅

木芽は冬の寒さを  
しのぎ、春の訪れを  
告げ、新しい生命の  
始まりを象徴する  
植物として愛され

春十  
素山  
好木  
鬢風  
閑史  
程玉  
由父  
大和  
山香

柳

言そをて女白くも木無心  
正白くも白くも白くも  
正白くも白くも白くも  
梅のさきも白くも白くも  
公梅や白くも白くも  
ちりちりも白くも白くも  
梅のさきも白くも白くも  
聖のさきも白くも白くも  
のさきも白くも白くも

春十九

陸奥 泰里  
伊勢 巨石  
播磨 杜竹  
越前 梨青  
越前 瓜坊  
近江 獨園  
肥前 巨海  
肥前 青馬  
伊賀 片巻  
伊賀 吳門

柳

青柳のあかきつらきつら  
まきまきまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき  
あかきつらまきまきまき

信濃 文里  
美濃 松巻  
近江 葉二  
近江 麓雨  
近江 月村  
近江 志風  
近江 名及  
近江 大島  
近江 錦巻  
近江 古考

梅柳  
松緑

春の柳書くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは

末 甚化  
 上 末之  
 雨竹  
 徐々  
 末 夢亭  
 末 簀山  
 末 踏山  
 末 嶺文  
 末 都亭  
 末 自歸

春十

海苔

若海藻  
海雲

海苔の味は春の味を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは  
 春の風を吹くは春の風を  
 吹くは春の風を吹くは

末 二柳  
 末 折風  
 末 春鴉  
 末 馬隨  
 末 支那  
 末 蝶交  
 末 梅景  
 末 和玉  
 末 見推

丁大根 丁茎 醫

山崎の杉布の心草を  
 梅の枝を切つて  
 日暮のむらぎの干大根  
 与る  
 多岐の松の枝を  
 与る  
 与る  
 与る  
 与る  
 与る  
 与る

長水 松漬 東候 坡良 漢史 林刈 止鳥 杉井 耳香 長路

春九一

今... 山崎... 梅... 日暮... 与... 多岐... 与... 与... 与... 与... 与... 与...

今... 山崎... 梅... 日暮... 与... 多岐... 与... 与... 与... 与... 与... 与...

山崎 梅 日暮 与 多岐 与 与 与 与 与 与

水鳥 百子鳥

松雨 小達 木安 但馬 江戸 晋鷲 茂以  
 丹后 岩手 孝友 標平 李雷

春廿二

白魚 干鰯 蛤 蛭

青龍 緑箱 其雄 五有 左一 木架 芝蘭 梅泉 只言



魚上水  
瀬登魚  
春日

春風

の春風は果てしなく加ふる  
何れも春風の吹くを待たぬ  
魚上水の瀬登魚の結句  
西宮の結句も春風の吹く  
梅上水の吹くも春風の吹く  
蟻の巣も春風の吹く  
稻の文も春風の吹く  
けしの目も春風の吹く  
鶯の目も春風の吹く  
雀の目も春風の吹く

遠江 白轆  
徳島 春先  
青梅  
蝶交  
仙臺  
其川  
大和 鯉  
加賀 白鳥  
壱岐

春九三

春風

春風の吹くも果てしなく加ふる  
何れも春風の吹くを待たぬ  
魚上水の瀬登魚の結句  
西宮の結句も春風の吹く  
梅上水の吹くも春風の吹く  
蟻の巣も春風の吹く  
稻の文も春風の吹く  
けしの目も春風の吹く  
鶯の目も春風の吹く  
雀の目も春風の吹く

備后 机友  
坂后 一朶  
先帝 貝采  
佐渡 二葉  
陸奥 水素  
伊勢 春晴  
徳島 鳳翔  
百几  
二柳  
菊二

春雪

雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは

伊勢 八岐  
後 李川  
お井 一深  
尾張 曉臺  
丹后 瓜江  
丹后 馬耕  
薩摩 翁州  
播磨 寒嶋  
近江 龍川

春九四

春雪

雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは  
雪のふりしは春の雪のふりしは

如月 出蒲  
陸奥 楚山  
丹后 芳南  
甲斐 訂草  
三河 琴雪  
末 李成  
後込 習之  
とに 山市  
丹後 幽堂  
丹後 竹義

淡雪

枯葉の志りし花の影  
淡雪の陰をくさくさ  
淡雪の陰をくさくさ  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
淡雪の影をくさくさ  
淡雪の影をくさくさ  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影

残雪

分吹  
五什  
湖坊  
柴山  
吳冲  
怒卿  
立成  
散菴  
蝶夢  
健月

春廿五

雪解

松の影をくさくさ  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影  
あつちを移る花の影

蒲尺  
他志  
角支  
鷺石  
我樂  
桃里  
葉亮  
大貴  
弥芳  
涼亭

雪間

雪汗

氷解

雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解

雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解 雪間 雪汗 氷解

春廿六

凍解

水温

春水

凍解 水温 春水 凍解 水温 春水 凍解 水温 春水 凍解 水温 春水

凍解 水温 春水 凍解 水温 春水 凍解 水温 春水 凍解 水温 春水

霞

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

子行 香貫 桑五 沂風 鯨魚 此柱 山呂 長翠 五嶺

春廿七

鐘聲

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

其鐘 緯石 素郷 葦草 瓦合 菅白 籟丈 文後

長閑

山崎の清和のふれいふれい  
一は清和のふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい  
ふれいふれいふれいふれい

長閑  
見山  
龍諸  
依分  
里十  
子羽  
妻字  
化公  
林島  
字竹

麗

麗  
暖  
餘寒  
冴

後良  
九十  
後川  
尾二  
茅智  
月守  
不眩  
菊西  
素友

妻の心もいと根付く  
 此の心もいと根付く  
 初年也書  
 木地が縁  
 佐保姫  
 仙李

二月

夫目九九

衣巻  
 二日灸  
 秋奠  
 初午  
 二層修法

此の心もいと根付く  
 二日灸家々令大事あり  
 初年也書  
 初午也書  
 二層修法

巴一  
 道肥  
 宗無  
 陽山  
 殊若  
 几若  
 五来  
 琴若

薪能

あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光

暗花  
千壺  
李青  
葉二  
盤風  
木采  
只軒  
牙和  
宗居  
山江  
山江

春三十

涅槃會

二日女

涅槃像

あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光  
あけのぼる朝の光

木采  
雁當  
白兒  
南歌  
仙南  
福位  
珠曼  
雅門  
如泊

佛別

雪果

嵯峨柱炬

西行忌



五言

積塔

寫之... 積之... 貝之... 聖之... 菜之...

末 藻亭

信亮 巴川

末 姬善

松洋 寸魚

秋 如秋

信亮 折風

友梅

末 杏序

相為

其朝

春三ノ一

貝壽風

聖靈寺

菜種供

彼岸

泊龍酒

彼岸... 泊龍酒... 寫之... 積之... 貝之... 聖之... 菜之...

末 金厄

末 一笑

信亮 抄和

信亮 庄月

旧曲

魚譜

古菜

信亮 鳥似

末 木越

末 自来

臘月

臘月

海にわたる雪の白く  
潮の音を聞くは  
春の中をゆく  
川の流れは  
あはれなる  
はらばら  
くまの  
翠の  
町  
うら

梅子 松後  
末 子坤  
東 東若  
谷 瓦全  
路 路天  
古 古謙  
文 文里  
一 一岸  
安 安若  
莞 莞尔

春三三

春月

春月

春月

地は  
や  
傘  
松  
松  
朝  
大  
悠  
う  
春

松 松後  
成 成美  
佳 佳し  
若 若津  
土 土鈴  
洞 洞曼  
古 古勢  
如 如毛  
獨 獨石  
未 未龍

春夜

春夜の静けさ  
花の匂い  
月影の  
清らかな  
空の  
静けさ  
心ゆく  
寝る  
静かな  
夜  
静かな  
夜  
静かな  
夜  
静かな  
夜

淡路 吳家  
近江 里妹  
桑 蘭之  
正巴 巨石  
山崎 毛條  
近江 枝信  
近江 騏道  
雨竹

春三卷

春雨

春雨の音  
花の匂い  
月影の  
清らかな  
空の  
静けさ  
心ゆく  
寝る  
静かな  
夜  
静かな  
夜  
静かな  
夜  
静かな  
夜

若石 杜由  
日向 猶鏢  
信濃 野洞  
瓜房  
石牙  
佐波 巴陵  
丈山  
尾張 桑二  
遠江 百枝  
徐生

陽炎

十景圖也其指也... 陽炎也月共也... 同結也...

汗勞 魚吹 崔石 本空 塘雨 疎光 雨流 靑牛 得皮 雙角 軒負

東

水

陰

陽

系

東水也... 水也... 陰也... 陽也... 系也...

文里 崔茶 路凡 雷江 蕭城 琴之 整樹 東謝 竹龍 是月

苗代

水糸

初雷  
初電

野馬や海行古衣を好し  
 杉葉や糸申し長持梅乃程  
 小菟やいねむる海柳あり  
 空のくさねや初電のひかり  
 有る神事なめくもむす  
 神や鯛もあつし雲のそら  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし

丹後 流布  
 丹後 太溪  
 丹後 魚木  
 伯耆 几菴  
 伯耆 雲五  
 伯耆 眠亭  
 伯耆 兼路  
 美作 為樂  
 出羽 千和

春三ノ五

苗代や海行古衣を好し  
 杉葉や糸申し長持梅乃程  
 小菟やいねむる海柳あり  
 空のくさねや初電のひかり  
 有る神事なめくもむす  
 神や鯛もあつし雲のそら  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし  
 大なるまゝの雲もあつし

丹後 流布  
 丹後 太溪  
 丹後 魚木  
 伯耆 几菴  
 伯耆 雲五  
 伯耆 眠亭  
 伯耆 兼路  
 美作 為樂  
 出羽 千和

萬葉

種井

種蒔

種下

種草

葉蔓ありて流るる如く時を陰

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

種をくく流るる如く日和の

上野 葛雲

可云

西序

視山

玉芝

兔江

滝口

種考

晋信

春三六

晒塗

田打

畑打

焼野

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

如く晒す如く晒す如く晒す

近江 芦水

近江 箕山

近江 兔徑

近江 漢水

近江 素友

近江 蒲尺

近江 馬佛

近江 渭水

近江 瓜涼

嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...

春山

山焼

末夏

萩焼系

春三十七

嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...  
 嵯峨野をたづねて...

嵯峨

春野

志隆  
 露重  
 槐生  
 五友  
 百維  
 素兒  
 福山  
 為十  
 嵯峨  
 岳如

防風 山葵 杉葉 玉筆 狗脊

温泉水より藤の心より花の  
 根の心より花の心より花の  
 心より花の心より花の心  
 より花の心より花の心より  
 花の心より花の心より花の  
 心より花の心より花の心  
 より花の心より花の心より  
 花の心より花の心より花の  
 心より花の心より花の心

下野 尺艾  
 改後 椴 柳 庄  
 伊勢 吏 舩  
 丹波 竹 舟  
 東 六 合  
 改后 李 凡  
 改后 素 菊  
 改后 蔭 亭  
 改后 守 溪

春三ノ八

獨活 慈姑 蒲公英 薊 眉作 蟹甲

赤穂やうと糸釣る木多風  
 水の信たぬきも独活清  
 子の中よりいれあそび人  
 持てのし回轉するも花  
 秋もあそびあそびあそび  
 一ふふも踏むもあそび  
 ちりちりもあそびあそび  
 ちりちりもあそびあそび  
 ちりちりもあそびあそび  
 ちりちりもあそびあそび  
 ちりちりもあそびあそび

下野 獨活  
 改後 慈姑  
 改后 蒲 英  
 改后 薊  
 改后 眉 作  
 改后 蟹 甲  
 改后 守 溪  
 改后 蔭 亭  
 改后 素 菊  
 改后 李 凡  
 改后 六 合  
 改后 竹 舟  
 改后 吏 舩  
 改后 柳 庄  
 改后 椴  
 改后 尺 艾



菜花

肩のぬき花をさすは  
育のきくは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
花のぬき花をさすは  
目に見えぬ花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは  
菜の花をさすは花をさすは

可成 雲化

去す 白兒

去す 龍川

加す 銅羽

加す 由理

加す 士巧

加す 恭誠

京 樂家

京 邦亮

了翁

春三九

大根花

大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは  
大根の花をさすは

加す 垢子

加す 松雨

加す 禹桺

加す 拳石

加す 燕美

加す 故栖

加す 翠壺

加す 米丈

加す 漆水

加す 仙雲

菘花

青芥子

之世芥

苴

胡葱

薔 蒜 野葱 薔菜 蓮菜

薔の足は白く花は赤なり  
 蒜の根は白く葉は青なり  
 野葱の根は白く葉は青なり  
 薔菜の根は白く葉は青なり  
 蓮菜の根は白く葉は青なり

位成 胡花  
 佐考 月梅  
 後成 土俵  
 陸奥 野葱  
 日向 大葉  
 其白 其白  
 奉雨 奉雨  
 東鏡 東鏡  
 柗糸 柗糸  
 送碎 送碎

春四十

牡丹

牡丹

紅梅

牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり  
 牡丹の根は白く葉は青なり

後成 左水  
 陸奥 牡丹  
 丹后 雨巻  
 後成 雨巻  
 陸奥 雨巻  
 延長 雨巻  
 路靜 雨巻  
 本海 雨巻  
 其成 雨巻  
 後成 雨巻  
 師由 雨巻

未開花

深きもや

深也

八重梅

やまの

鳳心

越中梅

八重梅

不末

黄梅

越中梅

牛牛

初梅

黄梅

未花

初梅

出羽

春四ノ

初花

初花

夏石

初花

初花

長古

初花

初花

新安

初花

初花

冬花

彼岸櫻

糸櫻

連翹

椿

Handwritten cursive text for the right page, corresponding to the plant names above.

二返

之園

吳送

一龍

尚卿

狂序

去行

子影

幽露

出極

春四二

藤

松

杉

木

木

木

Handwritten cursive text for the left page, corresponding to the plant names above.

枝語

夕夜

彩我

雨石

夢香

曲川

叔次

寒口

腫毒

吾同

枸杞

接骨木花

接木

くもの葉も乾く梅もあがりふ  
一徹

法華寺のつらね梅もあがりふ  
角徳

志保村のつらね梅もあがりふ  
徳徳

つらね梅もあがりふ  
枯秋

梅の香もあがりふ  
方堂

梅の木もあがりふ  
一

梅の香もあがりふ  
孤河

梅の香もあがりふ  
夜江

梅の香もあがりふ  
香江

接梅

雛子

春四ノ巻

秋瓜

松雨

松雨

松雨

松雨

松雨

松雨

松雨

松雨

松雨

燕 果鳥 顔鳥

Handwritten cursive text in vertical columns, likely a list of names or descriptions.

市曲 不逸 古菜 翠雲 采姑 九阜 何木 季遊 十書 吉書

春田ノ四

鳥

帰雁

Handwritten cursive text in vertical columns, likely a list of names or descriptions.

文耕 子來 文耕 宜齋 菜二 徳聖 九華 路候 了休 五逸

行雁

雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも

眠床 如閑 素兄 吉野 梅曉 河海 秋毛 鷺橋 湖天 吾船

春四、五

雁別

引鴨

引鶴

雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも  
雁の行はるるも 雁の行はるるも

丹后 其景 遠江 之山 松中 玉野 名及 和琴 津外 丁水 官橋 朱文 仙景

雲雀

中... 雲雀の鳴き声は春の知らせである。...

伊勢 雲雀 伊賀 輪々 伊豆 青馬 伊弉 蘭洲 伊弉 集上

春四ノ六

鸞

鸞の鳴き声は天の使者である。...

伊弉 湖植 伊弉 素泉 下流 徐舟 山城 曾舟 未 如洋 後后 恭侯

駒鳥

松尾鳥

鳥巢

鳥巢の鳴き声は鳥の巣を守る。...

恭侯



雀巢

雀巢の鳥は巣を築くが如く  
人の心も巣を築くが如く  
鳥の巣は木の上に築くが如く  
人の心は道の上に築くが如く  
鳥の巣は一つ一つ築くが如く  
人の心は一つ一つ築くが如く  
鳥の巣は堅く築くが如く  
人の心は堅く築くが如く  
鳥の巣は静かに築くが如く  
人の心は静かに築くが如く  
鳥の巣は美しく築くが如く  
人の心は美しく築くが如く

如風 上世 三巴 雀巢 近江 三泉 其柙 素喜 家風 竹外 文沙 凉臥

春四ノ七

雀子

鳥囀

朝會

繼尾齋

鈴屋齋

鷹代成鳩

泊山

鳥囀の音も鳥の囀るが如く  
朝會の音も鳥の囀るが如く  
繼尾齋の音も鳥の囀るが如く  
鈴屋齋の音も鳥の囀るが如く  
鷹代成鳩の音も鳥の囀るが如く  
泊山の音も鳥の囀るが如く

泊山 幽篁 石鼓 急陵 南峯 し意 麥香 青楓 青荷

泊狩  
地虫出  
蛇壳出  
蝶

谷戸橋よりの木の根の那  
 河のふち朝のやも草なり狩  
 那揚草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に

若白  
 菅道  
 此根  
 園交  
 里見  
 曾秋  
 林可  
 鳥語  
 雨石  
 杉夕  
信房  
若差

春四ノ

水

蝶のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に  
 那草のやも草をよす草に

桃如  
 我樂  
 如水  
 吳明  
 古奇  
 文里  
 一汗  
 那夢  
 密古  
 谷水  
信房  
若差  
若差

統

蜂

Handwritten cursive text in the right column, likely a poem or a list of characters related to the '蜂' (Bee) section.

麦宇 子龍 左保 十城 知白 了曉 祥然 桂色 費番 雨律

春四ノ九

蛙

Handwritten cursive text in the left column, likely a poem or a list of characters related to the '蛙' (Frog) section.

有光 橙雨 似柳 雲帶 馬瓢 新林 巨井 古巢 雨老

蛙子

梅の葉は色もくもくして  
青く中に冷気ある青也河の蛙  
遊むもくもくもくもくもくもく  
春の風もくもくもくもくもくもく  
蛙子もくもくもくもくもくもく  
かきもくもくもくもくもくもく  
くもくもくもくもくもくもくもく  
餅料もくもくもくもくもくもく  
くもくもくもくもくもくもくもく  
蛙子もくもくもくもくもくもく

之河 五葉  
梅家  
春風  
桃秋  
牛乳  
湯水  
湯水  
未風  
蘭室

春五十

国理

蟻  
寒居虫  
初齋

あつてもや人のあつてもくもくもくもく  
塊もくもくもくもくもくもくもくもく  
かきもくもくもくもくもくもくもくもく  
編織もくもくもくもくもくもくもくもく  
苗もくもくもくもくもくもくもくもく  
あつてもや人のあつてもくもくもくもく  
物もくもくもくもくもくもくもくもく  
馬もくもくもくもくもくもくもくもく  
世の中もくもくもくもくもくもくもくもく  
初齋もくもくもくもくもくもくもくもく

塘室  
老蟻  
凡鳥  
舊春  
芥湯  
風怒  
通第  
春南  
披良  
政章

諸子魚

飯箱

猫事慈

七つ餅やまのふたふたの山を  
 砂山やまのふたふたの山を  
 小椀にや籠籠ちる里法面  
 飯にや籠籠ちる里法面  
 味の事や籠籠の古所もはく  
 味の事や籠籠の古所もはく  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を

視山  
 文之  
 其雪  
 善水  
 自雅  
 春路  
 氏古  
 只白  
 一峯  
 里美

春五十一

諸子魚

飯箱

猫事慈

七つ餅やまのふたふたの山を  
 砂山やまのふたふたの山を  
 小椀にや籠籠ちる里法面  
 飯にや籠籠ちる里法面  
 味の事や籠籠の古所もはく  
 味の事や籠籠の古所もはく  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を  
 やまのふたふたの山を

其雪  
 子影  
 梅居  
 白兒  
 南尺  
 喃風  
 林鳥  
 梅江  
 鳥暮  
 尾法



てあつたのうらなひのうらなひ  
伸のうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ

原公 張子 二仙 支玉 南昌 近江 荒文

三月

上巳 於生  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ

左江 彦白 祐之 臨花

春五ノ巻

曲水

鶉合

雛祭

あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ  
あつたのうらなひのうらなひ

鶉口 彦道 了洞 雲冬 雨音 帆風 雨落 指鳩 近江 龜文

梅珠 以平  
 蘭室 上取  
 金巻 以平  
 洗車 以平  
 望海 以平  
 吾營 加夜  
 風送 加夜  
 素以 尾尾  
 一泉 尾尾  
 紫衣 尾尾  
 桃柳 尾尾

夫日五十四

桃酒 尾尾  
 柳鬢 尾尾  
 柳太刀 尾尾  
 草餅 尾尾  
 其後餅 尾尾

極やまきまうや餅乃高所  
 いまのやまきまうやまの酒  
 酔意を桃のるをれも乃儀  
 肩のくくも柳のるをれも乃儀  
 盤にまきまうや餅乃高所  
 此馬は人持のや柳太刀  
 さしをれも柳のるをれも乃儀  
 城の白飯のるをれも乃儀  
 田のるをれも餅乃高所  
 山をれも切田のるをれも乃儀

文里 尾尾  
 柳下 尾尾  
 瓢箪 尾尾  
 富士 尾尾  
 定雅 尾尾  
 東朝 尾尾  
 家凡 尾尾  
 子雲 尾尾  
 如洋 尾尾  
 石州 尾尾



潮下

古の潮下はたゞの潮下  
名前の潮下はたゞの潮下  
もつた潮下はたゞの潮下  
波の潮下はたゞの潮下  
一人の潮下はたゞの潮下  
ふり向の潮下はたゞの潮下  
一里の潮下はたゞの潮下  
旅人の潮下はたゞの潮下  
船中の潮下はたゞの潮下

浪石 丁  
浪石 何人  
浪石 可意  
浪石 五風  
浪石 春雪  
浪石 春雨  
浪石 杏扉  
浪石 園更  
浪石 梅止

春五五

安良花

安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花  
安良花の安良花

浪石 凡摩  
浪石 仙葉  
浪石 保鶴  
浪石 重厚  
浪石 三蘭  
浪石 雨竹  
浪石 春潮  
浪石 此意  
浪石 翠室  
浪石 一公

重々

十本

浪浪

暖簾身柱

東堂新撰

峯入

出代

結衣のしるしはくさくさのしるし  
境のしるしはくさくさのしるし  
結衣のしるしはくさくさのしるし  
境のしるしはくさくさのしるし  
結衣のしるしはくさくさのしるし  
境のしるしはくさくさのしるし  
結衣のしるしはくさくさのしるし  
境のしるしはくさくさのしるし  
結衣のしるしはくさくさのしるし  
境のしるしはくさくさのしるし

京

引泉

道肥

几董

瓦全

二拾

梅全

仙凡

採豆

却友

為愛

春五ノ六

お代のしるしはくさくさのしるし

境のしるしはくさくさのしるし

お代のしるしはくさくさのしるし

境のしるしはくさくさのしるし

お代のしるしはくさくさのしるし

境のしるしはくさくさのしるし

お代のしるしはくさくさのしるし

境のしるしはくさくさのしるし

お代のしるしはくさくさのしるし

境のしるしはくさくさのしるし

丹后

上野

丹后女

若子

女

志仙

若子

若子

若子

若子

〇八五事也昔者守くゝる也  
 出ひのこもぬいぬい  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを

光陰 似龍
柳女 虎峒
紀伊 吐言
此拉
此系
魯白
松石
佐波 貞所

春五七

爐

炉塞

〇八夜  
 霜鏡  
 永日

〇八五事也昔者守くゝる也  
 出ひのこもぬいぬい  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを  
 出ひのつらき心なかりしを

光陰 桃溪
安塞 風葉
陸東 月暈
東翠
竺言
三鼓
夏推
洞芝
遊水
東巖

八夜

霜鏡

永日

花

花の香も春の来し向の香  
水白波も春の来し木縁の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香

後中 葉隠  
松崎  
長門 丈山  
お授 魚吹  
飯守 林全  
信成 巴文  
花子 字勢  
由良 波瀾  
志風  
淡翁

春五八

花の香も春の来し向の香  
水白波も春の来し木縁の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香  
花の白も春の来し花の香

上原 李朝  
指月  
樂志  
ほろ 破片  
太溪  
陸更 文里  
梅中  
太安  
岨山

櫻

はつたけのさくら花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ

はつたけ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
五雲  
涼瓜  
紫雲  
郎城  
雲角  
園交  
沂風  
蕪春

春五ノ九

山櫻

あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ  
あはれなる花のしらけ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
官氣  
致一  
桐亭  
桃園  
杏桂  
槐主  
紫雲  
杜音  
甲斐  
素芳

遅梅

落元

士然  
 一舟  
 維齔  
 湖舟  
 牛乳  
 祖風  
 青薺  
 香山  
 落元

春六十

花守

之根  
 木鷗  
 如在  
 栢齋  
 了節  
 徒平  
 牛子  
 沂凡  
 不末

花見

花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心  
花見の心は春の心

魚傘

巴陵

寸清

兼強

亀文

百尾

馬田

一以

雨端

鶏口

梅狩

春六ノ一

桃

桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心  
桃の心は春の心

貞松

棠

李

梅

桃

杏

梨

櫻

梅

桃

杏

梨

櫻

梅

桃

杏

梨花

いづれか花のうらみも  
及のちの和歌ならぬ梅の花  
よほの仙女いづれか花の  
心ゆく女の心あるまじく  
秋のちりちりしりしり  
月乃夜とて花なり 梨花  
おもしろく押さへておもしろ  
縄朽てし面もなれ 花のうら  
めを花のうらみも 梨花の花  
夕べのうらみも 花のうらみ

追ひ 追ひ  
何れ 何れ  
柳南 柳南  
何風 何風  
五井 五井  
三門 三門  
麻介 麻介  
紀中 紀中  
對井 對井

春六八二

杏花  
林檎  
材花  
海棠

山吹

あなただけの山吹の花  
うらみはしるしとて花のうら  
かたのうらみも花のうらみ  
中京のうらみも花のうらみ  
いづれか花のうらみも  
海棠の花のうらみも  
山吹の花のうらみも  
山吹の花のうらみも  
山吹の花のうらみも

追ひ 追ひ  
加角 加角  
呂物 呂物  
流翠 流翠  
子雲 子雲  
依弓 依弓  
鹿耳 鹿耳  
追ひ 追ひ  
東波 東波  
支百 支百



藤

心も静かにもわかれしうら  
やまもやうなうらもいそ  
る藤のつたはり海にわたる  
山吹の藤は下はくさる家  
のうらやうなうらうら  
婦のたはりも藤のうらや  
出たりもいそりもいそり  
不意のふくむ松のうらや  
藤のうらやもいそり人の中  
お人のうらやもいそり

加賀 佛仙  
東坂  
藤下 桃平  
山吹 様屋  
藤下 雛川  
和正 竹意  
鳥咽  
周我

春六ノ巻

躑躅

心も静かにもわかれしうら  
やまもやうなうらもいそ  
る藤のつたはり海にわたる  
山吹の藤は下はくさる家  
のうらやうなうらうら  
婦のたはりも藤のうらや  
出たりもいそりもいそり  
不意のふくむ松のうらや  
藤のうらやもいそり人の中  
お人のうらやもいそり

加賀 羽人  
飯後 竹意  
藤下 竹外  
下谷  
菅杖  
素島  
加賀 桃也  
様屋  
素丸  
鳥咽

楮花



五般 芽花 念信 虎杖 董 若菰 蔣生初 青麥

五般 芽花 念信 虎杖 董 若菰 蔣生初 青麥

山巴 一徹 鳴水 妹鼓 蝶曼 巴菊 里田 砂明 約我

春六ノ五

茶葉撰 三月菜 茶摘

茶葉撰 三月菜 茶摘

鳥福 蘭長 蕨哉 山生 梅居 金生 芥人 泰丈 共朝

新羅橋

橋のたもとにありては  
流のたもとにありては  
くまのたもとにありては  
桑田のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては

寸江  
故橋  
航車  
築家  
如在  
東走  
陶々  
上人  
江山  
浅里

卷六ノ六

蠶

呼子鳥  
郭公泉  
鷹巢  
麥結  
田圃化鶴  
鳥帰  
雲鳥

書のたもとにありては  
流のたもとにありては  
くまのたもとにありては  
桑田のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては  
丸のたもとにありては

以琴  
梧堂  
一紅  
片荷  
三絲  
杜李  
柔柳  
其西  
純市  
如風

櫻鯛

櫻魚

櫻鱒

櫻貝

柳競

若鮎

及鮎

しりしり梅しりしりしり鯛  
梅しりしりしり鯛しりしり  
よしりしりしりしり梅しり  
若しりしり梅しりしりしり那  
競しりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
日しりしりしりしりしりしり  
競しりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
鮎しりしりしりしりしりしり

安曇 金魚

和泉 鯛

和泉 鯛也

和泉 鯛

和泉 鯛

和泉 鯛

山崎 李雲

山崎 古俣

山崎 二二

山崎 几華

春六ノ七

魚上藥

菱近

菱待

春暮

やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん  
やんやんやんやんやんやんやん

大和 古州

他子母 幾多

他子母 七加十

浪花 白朗

海部 秋心

五子 長山

和泉 輕舟

和泉 友之

和泉 幾多

和泉 幾多

和泉 杜由

暮春

行春

大和路也... 宇治也... 吉原也... 花見也... 月見也... 舟遊也... 山遊也... 水遊也... 行春也...

定本 蒲尺 彫鼓 梅東 山雲 大意 琴柄 土作 甲安 春六ノ八

惜春

三月盡

三月盡... 四月始... 五月始... 六月始... 七月始... 八月始... 九月始... 十月始... 十一月始... 十二月始...

蘭戸 昌字 卓沙 菓字 喜容 夢二 春鶴 曉基 巴川 洗柳



